

自然の素材を生かした保育環境について (その2)

—ハーブを中心とした活動の展開とその意義(主として遊具制作との関わり)—

○隈元君代 (松ヶ丘幼稚園)

美崎幸代 (下東条中央保育園)

竹井 史 (富山大学)

重森澄江 (尼崎保育研究会)

小論では、主としてハーブによる遊具作製それらの素材を生かした保育環境の意義について述べる。

1 経過

(1) ハーブ・マローによる活動

(A園) これまでに①蓬②玉葱③すおう④くちなし染めの経験がある。7月下旬、既にマロー・ティ体験を踏まえマロー染めをした。花びらを炊いた後食酢を加え、透明な赤味を帯びた濃い紫色の液に絹を浸す。「きれいな紫でも赤っぽい色」とこれまでにないマロー独特の赤味を帯びた紫色の色に気づく。その布の端の方を銅媒染液に浸すと、「さっき(乾燥前)より、黄緑とうすい紫が混ざってきれいになった」と異なる媒染による染めの違いを発見し、興味・関心を示した。

(2) 赤紫蘇の葉、茎による活動 (A, B園)

B園はこれまでに玉葱染めの経験があり、和だいこを打つ時にバンダナとして活用した。9月上旬、採集し、炊く。「梅干のいい匂い」「赤い葉っぱが線(細く)になった」と色素が抽出される変化に気づく。早速、絹、綿布を染液に浸す。絹はピンク、それをアルミ媒染による濃いピンクがかかった紫色の変化にも気づく。A園では更に紫蘇の葉、茎を一緒にして染液を作り、食酢を加え、澄んだピンクとなり、黒豆でできた模様や結んだ部分の白い模様に関心を示した。

(3) マリーゴールドによる活動 (B園)

4月下旬に幼児と種をまき、栽培活動を行う。9月上旬、濃淡の2種類の花の色を摘み、④花のみを⑧花と茎と葉をたく。④はうすい黄色⑧は濃い黄緑色とその染液の違いに気づく。翌日、染めたい素材を各自持参。これらの染液は④、⑧を選択し、媒染液も①アルミ②鉄を選んで染色。④と⑧の染液の色を対比し、染まる色を予想して「やっぱりレモン色」「黄緑色になった」とその色を確認する。作品は祖父母にプレゼントした。

(4) ぶどう(表皮)染めによる活動 (A, B園)

ジュース、ジャム作りの体験を基にA, B園共にぶどう染めを行う。表皮を煮ると「うすいピンクが濃い紫色になった」と染め液が濃くなった事を見つけた。「きれいな紫」等とその染液に絹を浸し、「やっぱり紫色になってきた」と見通しのある染色活動となる。乾燥し

た布をほどくと、B園では黒豆、どんぐり、つばきの実等を巻いた模様に「大きな花できた」とその模様の変化を喜び、次への染色に意欲的となった。A園は黒豆を布の上にのせ、花や動物等をイメージし、つくった模様に「お花みたいになった」「うさぎさん」と喜んだ。

◎和紙を染める

A園では①食酢を加えた液②食酢を加えない液を対比し、②はうす紫①は美しい赤紫に染まり、その変化に関心を示す。B園では和紙に牛乳を浸した方が少し紫色が濃いことに気づく。A, B園共に「やっぱり紫色になった」等とその発色の見通しをもった。

(5) ローズマリーによる活動 (A園)

11月下旬、数年前から植えているローズマリーの花、葉、茎等に「すごくいい匂いがする」と関心を示すのでその小枝を保育室に飾り、染色に展開した。枝ごと刈り取り、更に約3cm位に折り、煮液を「黄土色」「いい匂い」「ちょっときつい匂い」等、特有の匂いや発色に関心を示した。④絹⑤綿布⑥毛糸①②③(①市販②原毛の毛糸)を染液に浸すと⑥より④の色がやや濃い黄色③は①②共に表面のみが黄色。そこで③は翌日までそのまま染液に浸す。④と⑥の布を⑦アルミ、⑧銅、鉄媒染(木酢酸)の液を選択して染める。その結果⑦「さっきより濃い黄色」⑧「うあー黄緑」⑨「うあーねずみ色、ちょっと黄色、まほうかなあ」とその異なる媒染による発色の違いに強い関心を示した。更に原毛の羊毛を毛糸に作製、ハンドカーダーにより糸状になった瞬間全児が息をのむ如く真剣な表情となり、「すごいなあ」と口々に言い合う。その毛糸を触り「細いのや太いのがある」「でこぼこしてる」等と手作りの良さを評価し、更にそれに触れて「いい気持ち」という。

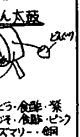
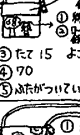
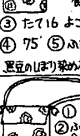
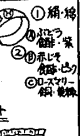
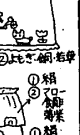
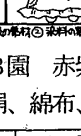
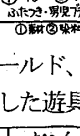
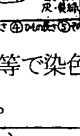
(6) メドーセージによる活動 (A園)

11月下旬、園庭のメドーセージの匂いに「ローズマリーよりやさしい匂い」と親しみをもち、それを染めた液に「それよりうすい黄色」とその微妙な発色に気づいた。更に⑦アルミ⑧銅⑨鉄媒染の液を選択して布を浸す。その結果⑦は「淡い黄色だけきれい」⑧は「黄緑」⑨は「グレーだけど黄色も混ざっている」とそれぞれの発色の違い匂いのよさにも気づいた。更

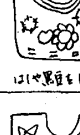
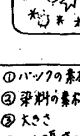
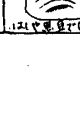
に乾燥した布の黒豆を取り除きS児が「あれ黄緑のここに赤紫、なんでもかある」とその絹の布を見て「黒豆がうつっている」とその発色に納得し楽しんだ。(染色、毛糸作製は44回大会、pp.686-687参照)

2. 染色した布、毛糸等を活用した玩具の作製

A園 赤紫蘇、ぶどう、ローズマリー、セージ等の染めた布や毛糸等を室内に並べ、幼児と話し合った結果、ほとんどの幼児が④人形⑤ポシェットを望んだため人形の服やズボン、さらにでんでんたいこ(幼児が低年齢児のために提案)等を主に保育者が作製した。

1. 人形	2. ポシェット	3. その他
 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白	 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白	 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白
 ① 上着・絹 ② 上着・王冠・アルミ ③ 26cm ④ ややふい・アルミ・茶 ⑤ 白	 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白	 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白
 ① 上着・絹 ② 上着・王冠・アルミ ③ 26cm ④ ローズマリー・鉄・灰 ⑤ 白(原毛による作り)	 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白	 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白
 ① 上着・絹 ② 上着・王冠・アルミ ③ 32cm ④ 市販・黒 ⑤ 肌色	 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白	 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白
 ① 上着・絹 ② 上着・王冠・アルミ ③ 37cm ④ ローズマリー・鉄・灰 ⑤ 肌色	 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白	 ① 絹 ② アフリカ・赤い・金 ③ 26cm ④ 知床・アルミ・茶 ⑤ 白

B園 赤紫蘇、マリーゴールド、ぶどう等で染色した絹、綿布、毛糸等を活用した玩具の制作。

バッグ (ポシェット型バッグ)	ポシェット (ベスト)
 ① 絹 ② 30cm幅の絹 ③ 横31cm縦22cm ④ 50cm ⑤ 黒豆しぼり	 ① 絹 ② 30cm幅の絹 ③ 横31cm縦22cm ④ 50cm ⑤ 黒豆しぼり
 ① 絹 ② 30cm幅の絹 ③ 横31cm縦22cm ④ 50cm ⑤ 黒豆しぼり	 ① 絹 ② 30cm幅の絹 ③ 横31cm縦22cm ④ 50cm ⑤ 黒豆しぼり
 ① 絹 ② 30cm幅の絹 ③ 横31cm縦22cm ④ 50cm ⑤ 黒豆しぼり	 ① 絹 ② 30cm幅の絹 ③ 横31cm縦22cm ④ 50cm ⑤ 黒豆しぼり
 ① 絹 ② 30cm幅の絹 ③ 横31cm縦22cm ④ 50cm ⑤ 黒豆しぼり	 ① 絹 ② 30cm幅の絹 ③ 横31cm縦22cm ④ 50cm ⑤ 黒豆しぼり

3. 遊具で遊ぶ子どもの姿

B園ではポンチョとポシェットの遊具を見て「家に持って帰りたい」「すてき」とそれを抱きしめて喜び、バッグA~Dを郵便ごっこのカバンにみたくて、手紙を何枚も入れ、年少児や他クラスへ配り、交友関係の巾を広げ、遊びの輪を広げた。

A園では1歳児はAの人形に頬ずりをし、Aのポシェットの中に入れる。Cの人形を抱いてゆらす。Dを布団にくるみ抱く。でんでんたいこをふってその音を喜ぶ。2歳児はADの人形をおぶりたいと保育者に依頼し、買い物ごっこが展開する。男児はでんでんたいこを振り、その自然な音の刺激を喜ぶ。3歳児はスカートをはきA~Eを選び、どんぐりや紙粘土等のケーキを入れADの人形を抱くお家ごっこ。男児は人形BDを持ち、振ったり、ジャンプをさせる動的な遊びをした。4歳児は人形、ポシェットなどを見て「可愛い、やわらかい」とA~Dの人形を選び、頬ずりをし「いい匂い」と髪を撫でる。その後、ままごと遊び、お店ごっこに発展した。5歳児はお店ごっこを開始。食べ物屋、食器屋、クリーニング屋となり、人形屋さんごっこに発展。人形A~Eに加え市販の人形1個を加えて売買となる。その結果、市販の人形は500円、手作りのA~Cは1000円以上、Dは5000円、その理由は髪の毛がよい匂い、スカートと服がかわいい、リボンが結べるからという。その後、遊具①②③共に複合した遊具を選び、組織的な遊びへと発展した。

4. 考察

自然素材によるハーブを主とした活動は、①ジュースの体験と重なり、異なるハーブの匂いを「いい匂い」とハーブに対する関心を増幅した。とりわけ、綿や絹に染色した布で人形やポシェットを制作することにより草木染め特有の柔らかな色彩とともにハーブの優しい香りや感触を表現することができた。このことは手作り遊具に対する興味関心を呼び起こし、遊びそのものを活性化の上で有効であったと思われる。②更にA、B園で様々な媒染処理を行ったことにより、色相の変化が現れ、幼児に「魔法みたい」と受け入れられ、染めに対する科学的な好奇心を効果的に呼び起こしたと考えられる。③また、地域の廃材となる松、椿等の実を利用し、染めの模様を工夫したこともハーブに対する関心を大きくし、ハーブ等の自然の素材特有の微細な色の変化にも興味深く好意的に受け入れられたと思われる。幼児期における自然素材を生かした環境教育の果たす役割とその意義は大きいと思われる。今後共自然素材を生かした保育環境のあり方を模索したい。